

D 恐竜 inosaurs

恐竜博物館ニュース

第11号

2004.3.25

福井県立恐竜博物館

特集：「中国浙江自然博物館と姉妹提携」

- 目次 ▼ 特集：「中国浙江自然博物館と姉妹提携」…2.3 ▼ 研究ノート／展示室以外の見所紹介（ダイノギャラリー）…4
▼ 岐阜県の恐竜化石／岐阜県博物館より…5 ▼ 展示標本紹介（スティリノドン・ミルス、尾羽鳥）／博物館バックヤード（石工室）…6
▼ 教育普及活動／H16年度からの開館日のお知らせ…7 ▼ 4月～8月催し物案内／後援会／編集後記…8



特集

「中国浙江自然博物館と姉妹提携」

浙江自然博物館との姉妹提携

3月12日（金）、福井県立恐竜博物館は、浙江自然博物館の康熙民（カン・キ・ミン）館長と金幸生（ジン・キン・シェン）研究員を迎え、浙江自然博物館との姉妹提携の調印式を恐竜博物館で行いました。

当館の姉妹提携は、2000年のカナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館、2001年の中国科学院古脊椎動物古人類研究所（北京市）に続き、3か所目になります。

福井県と浙江省との友好提携以来、これまで両県省は、経済、教育、文化等の分野で、活発に交流を行ってきました。恐竜博物館でも、開館した直後の平成12年9月に化石調査実務研修団を浙江自然博物館に派遣し、康館長はじめスタッフの方々のご協力のもと、浙江自然博物館の視察や浙江省の恐竜化石産地などの調査を行ってきました。この調査で、私たちは、浙江省の豊富な、また貴重な化石資源の価値と、その魅力を肌で感じることができました。特に、恐竜の卵化石については、埋蔵量が非常に多く、世界的に有名な河南省に匹敵するほど世界的にも貴重な標本です。恐竜博物館がこれまでに蓄積してきた恐竜研究の技術や経験を活用し、浙江自然博物館と共同で学術研究を進めていくことは、東アジア地域の恐竜研究の発展に大いに寄与できるものと思っています。また、平成13年5月には、康館長はじめ3名の浙江自然博物館の関係者が恐竜博物館を訪れ、施設の見学と、両館の将来的な交流についての意見交換を行いました。その時、康館長は将来的に恐竜博物館と「強い絆」で結ばれたいと、熱心に話されていました。その後も両館の交流は深まり、平成14年10月から約1ヵ年間、金研究員を、福井県が浙江省技術研修員として迎え入れ、金研究員には浙江省から産出した恐竜の卵化石について、恐竜博物館のスタッフといっしょに研究に取り組んでいただきました。

このような交流をとおして友好関係を深め、お互いの学術研究活動を進めていく中で実現した今回の両館の姉妹提携です。これを機に、学術研究、展示、教育普及、資料収集等における相互交流を一層深めていくことで、東アジア地域における博物館活動の発展と、多くの方々の知的創造活動を支援していけるように、両館が協力し合いながら、国際的なネットワークづくりをしていきたいと思っています。



姉妹提携調印式
浙江自然博物館康館長（左）と当館濱田館長（右）

ここで、今回姉妹提携を結んだ「浙江自然博物館」について紹介します。

長い歴史をもつ、由緒ある博物館

今回紹介する浙江自然博物館は、浙江省の省都「杭州市」の中心部にある博物館で、動物、植物、化石や岩石・鉱物などを扱った、省内唯一の自然史博物館です。同館は、長い歴史をもつ中国の中でも、最も古い自然史博物館の一つとされています。現在の博物館の前身となった西湖博物館は、歴史と自然の両方の分野を含んだ総合博物館として1929年に創設されました。その後、中華民国が中華人民共和国となった際に、西湖博物館は浙江省博物館と改称。さらに1984年に自然分野が独立し、現在の場所に新しい建物が建設され、浙江自然博物館として新たなスタートをきったのです。

75年もの歴史をもつ同館は、設立当初から博物館の役割を「社会教育機能」「研究機能」「資料の収蔵機能」の3つに置き、様々な活動を行ってきました。驚かされるのは、新館が建設されてからすでに20年は経とうとしていますが、現在でも年間およそ40万人の入館者を維持していることです。私たちが訪れた時にも、毎日何台もの大型バスが同館を訪れ、多くの児童・生徒たちが博物館を見学していました。また、長年の精力的な資料の収集によって、現在の収蔵点数は10万点を超えるそうです。



浙江自然博物館の外観

現在、杭州市では、自然博物館をはじめとするいくつかの施設が集結した、新しい文化施設の建設を進めています。浙江自然博物館は、これまで収集・蓄積してきた多数の収蔵物や情報、そして運営のノウハウを活かして、2年後の開館に向けて準備を進めています。



新館建設現場

博物館展示の特徴

約3,000m²の展示室は、「恐竜」「人体」「生物」「化石」の各セクションからなっています。入口を入ると、まずは中国産の巨大な竜脚類（オメイサウルス）を配したジオラマが目にとびこみます。つづいて浙江省産の獣脚類チランタイサウルスや翼竜の全身骨格模式標本をはじめとした様々な実物標本が並び、見るものを圧倒します。2階の「化石」セクションでは、浙江省やその他の地域から産出した素晴らしい標本が展示されています。中でも興味をひくのは、これまでに浙江省から報告された様々な生物の完模式標本（種の同定の際に基準となる標本）で、翼竜（白亜紀後期）、鳥（白亜紀後期）、恐竜（白亜紀前期）、魚（ペルム紀／白亜紀前期）、昆虫（白亜紀）や三葉虫（オルドビス紀）などの貴重な標本を間近に見ることができます。

また、栽培稲が見つかったことで、稲作文化の起源論に重大な影響をあたえた河姆渡遺跡から産出した家畜などの骨も展示されています。浙江自然博物館では、このように、化石を含めた自然史分野全般において、素晴らしい標本群が惜し気もなく展示されています。また、展示室にはボランティアの解説員が常駐し、来館者に展示物の理解を深めてもらうように努めています。1階にはミュージアムショップも設置されています。

（後藤道治、矢部 淳）



展示室1階の竜脚類（左：オメイサウルス、右：江山竜）

特別展 「日本と中国6億年（仮題）」

期間：平成16年7月10日（土）～9月26日（日）（7/14、28、8/25、9/8、22は休館） 場所：福井県立恐竜博物館特別展示室

恐竜博物館では、浙江自然博物館が収蔵する多数の実物標本を中心に、同館との姉妹提携を記念した特別展を今夏開催する予定です。

今回の特別展示では、目に見える“大型”の化石や岩石から、「生命の歴史」と「中国そして日本の大地の歴史」をひも解く展示を行います。

古生代では、有名な澄江動物群をはじめとして、浙江省内に設定されているGSSP(Global boundary Stratotype Section and Point)と、それに関連した化石を紹介します。GSSPというのは、地球の歴史の「ある時代の境界」を定義する場所で、その時代の地層や化石が世界中で最も良く残されている場所に設定されるものです。浙江省内にはオルドビス紀中ごろ（約4億7千万年前）とペルム紀／三疊紀境界（P/T境界：約2億5千万年前）の2つが設定されており、展示では日本のP/T境界層と合わせて紹介します。

中生代では、浙江省産の標本を中心に、中生代の陸・海・空に生活していた様々な動物や植物の化石を展示します。浙江省は近年恐竜化石の発掘が精力的にすすめられている地域で、中でも恐竜の卵や巣の化石は、“恐竜の里”と呼ばれる中国河南省に迫る程の産出量を誇るといいます。また、チランタイサウルス（獣脚類）や江山竜という新属新種



天台産の恐竜卵化石

の竜脚類、そして最近発掘されたアンキロサウルス類などの実物標本、世界でも数例しかないと言われる軟体部が保存された翼竜化石や、浙江省で産出した白亜紀の鳥化石などの完模式標本など、これまで門外不出だった標本が多数展示される予定です。

新生代では、省内から産出したゾウやパンダなどの化石とともに、中国甘粛省や山東省などのおよそ1500万年前の地層から産出した多数の哺乳類化石を展示しようと思っています。稲作文化の起源論に重大な影響を与えた河姆渡遺跡から産出した家畜などの“化石”も見どころの一つです。

今回の特別展開催期間中には、浙江自然博物館の研究員による同省の恐竜発掘速報の講演や、展示ツアーも予定しています。是非、恐竜博物館に足をお運び下さい。圧倒的な実物標本の迫力を存分に味わっていただけるはずです。

（矢部 淳、野田芳和）



江山竜（竜脚類）の脊椎骨



翼竜の頭骨

歯のあるヒゲクジラ

日本からはクジラや鯨類（アシカやアザラシ）、海牛（ジュゴンやマナティー）などの海生哺乳類の化石が多く出る。「クジラの化石なんかあるの!？」とたまに驚かれるが、恐竜の化石があるように、クジラの化石だってちゃんとある。もっとも、クジラと恐竜では生きていた時代が全然違う。クジラは恐竜が減んだ後に出てきたもので、一番古いクジラでも最後の恐竜から数えて一千万年以上経っている。

クジラは今でこそ魚みたいな形をしているが、そもそも陸で暮らしていた動物である。進化途中のクジラには後ろ足がある。バシロサウルスと呼ばれるクジラの足は体重を支えられないほど貧弱なものになってしまっているが、それでも太ももから指先まで骨が全部揃っている。歯も今のクジラとはだいぶ違う。ギザギザしており、見るからに恐ろし気である。原始クジラと呼ばれるその仲間の化石は日本では見つかっていないが、次の進化段階にあたるクジラが北海道東部と北九州から見つかっている。エティオセタスと呼ばれる歯のあるヒゲクジラがそれである。

現在生きているクジラは、歯クジラとヒゲクジラに大別される。歯クジラにはイルカのほかにマッコウクジラやシャチなどが含まれ



原始クジラの頭骨と歯



る。一方、ヒゲクジラにはナガスクジラやセミクジラなどが含まれる。歯クジラは歯をもっているが、ヒゲクジラは歯の代わりに角質のヒゲ板が口中に生えており、それでプランクトンをこしている。現在のクジラにはその2つのグループしか存在しないが、過去には歯をもっていたヒゲクジラがいた。その歯には小さなギザギザがついている。このことから原始クジラからヒゲクジラへと進化する途中の仲間であることがわかる。ヒゲでなく歯があるのに、なぜ歯クジラでないかという、頭の骨の組み合わせが歯クジラとヒゲクジラでは違うからで、エティオセタスの頭骨はヒゲクジラ型を示すのである。

我々は化石の研究を通して生物の進化過程を明らかにしようとしているが、歯のあるヒゲクジラのような明らかに祖先と子孫をつなぐ特徴を合わせ持つ生き物が発見されるととてもワクワクする。始祖鳥は鳥と爬虫類の中間のような生き物として有名であるが、クジラの研究者にとってみれば、歯のあるヒゲクジラはまさにクジラ界の始祖鳥とも言うべき存在なのである。（一島啓人）



エティオセタス・ポリデンタタスの頭骨と歯

展示室以外の館内見所紹介

Dino Gallery ダイノギャラリー

「恐竜」は我々人間の想像力をかき立てる生物です。人間が「恐竜」という得体の知れない生物を認識して以来、当時の科学的なデータを元に恐竜の生態や環境が復元され、それが芸術（アート）にまで発展しました。恐竜の絵画や彫刻など「恐竜アート」を専門とする「恐竜アーティスト」と呼ばれる数多くの芸術家が作品を発表してきました。「恐竜」以外でこのようなアートにまで発展した古代生物は他にないでしょう。

当館の1階には、恐竜アーティストの創作による絵画や彫刻が展示されています。絵画はほとんどが原画で、恐竜関係の出版物やポスターで掲載されたことのある有名なもので、極めて芸術的価値の高いものです。

恐竜アーティストも世界的に高い評価を受けているばかりです。画材も作風もさまざまで、油絵からアクリルや水彩さらにグアッシュやパステルといったものを使って描かれています。マーク・ハレット、ジョン・シビック、グレゴリー・ポールらの精巧な作品、パステルだけで植物食恐竜マイアサウラの生態を情感たっぷりに描いたタグラス・ヘンダーソンの作品、カナダの人間国宝の称号が与えられたエレノア・キッシュの遺作など、恐竜ファンだけでなく、芸術ファンの方にも十分な見応えがあるものです。さらに、しっぽを地面に着けたゴジラ型の姿勢をした恐竜を描いたウィリアム・シーリーの1960年代の作品など、その時代での恐竜研究により恐竜の背格好や風貌が異なってきたことがわかります。これらの作品は芸術的価値もさることながら、恐竜研究史的にも高く評価されるものです。

また、彫刻には映画「ジュラシック・パーク」（1993）で頭角を現し

たマイケル・トーシックの作品や「ジュラシック・パーク」でアカデミー賞特殊効果賞を受賞したスタン・ウィンストンが、この映画のために最初に基本制作したブラキオサウルス、ディロフォサウルス、ペロキラプトルが展示されています。何でここに展示されているのか！と目を疑いたくなるようなお宝です。

人間の想像をはるかに超える大きさや生き方をし、その時代地球上に君臨し、絶滅した「恐竜」が、アートとして生き残り、すべての作品が科学的データに基づいて制作されているだけでなく、生命力、力強さ、緊迫感を見る者に与えてくれています。今後も随時、作品を交換していきます。（寺田和雄）



アロサウルス/エレノア・キッシュ作



岐阜県の恐竜化石

平成元年に岐阜県白川村で恐竜の足跡化石が発見されました。この発見をきっかけに、平成2年に岐阜県恐竜化石学術調査団が結成され、岐阜県内に分布する手取層群の化石調査が始まりました。

以来、調査団や岐阜県博物館化石調査グループによる手取層群の調査が荘川村、白川村を中心に進められ、その後、神岡町や河合村、古川町（いずれも現飛騨市）地域にまで広げられました。これらの調査には福井県立恐竜博物館の御協力をいただいています。

調査団による成果を含め、これまでに岐阜県内から発見された恐竜の化石には、足跡、歯、骨片などがあります。

白川村の足跡化石は、明瞭な漣痕の上に残されたもので、主に連続歩行を示す複数の足跡からなっています。明瞭な足跡からは、三指性であることが確認できます。

この足跡化石が、岐阜県にお



白川村から見つかった足跡化石



荘川村での掘削調査の様子

ける恐竜化石の発見第一号となりました。神岡町（現飛騨市）の足跡化石は、県内における手取層群の白川村や荘川村以外からの初めての恐竜化石の報告となりました。

県内から見つかった恐竜化石の多くが恐竜の歯の部分です。これまでに白川村や荘川村から、獣脚類や鳥脚類の歯が見つかっています。獣脚類のものとしてはヴェロキラプトル亜科、鳥脚類のものとしてイグアノドン科のものがなどが確認されています。

恐竜の他には、荘川村や白川村からズンガリプテルス科の翼竜の歯や首長竜の歯が見つかっています。

岐阜県博物館の恐竜コーナーには白川村の足跡化石のレプリカや、白川村・荘川村から発見された恐竜の歯の化石のレプリカなどが、イグアノドン、アロサウルス、デイノニクスの全身骨格レプリカなどととも展示してあります。

(岐阜県博物館 古田靖志)



荘川村から見つかった獣脚類の歯



白川村から見つかった首長竜の歯



岐阜県博物館より

〒501-3941 岐阜県関市小屋名(百年公園内)
TEL 0575-28-3111
URL <http://www.museum.pref.gifu.jp>

岐阜県博物館は、100haの面積をもつ岐阜県百年公園の中にある森の中の総合博物館です。自然資料として、岐阜県産の恐竜足跡化石や植物標本、動物のはく製などが多数展示してあります。人文資料は、岐阜県内から出土した石器や土器、関ヶ原の合戦などの歴史資料や刀剣・仏像などの美術工芸に関する展示があります。また、県民のコレクションや作品を展示するマイミュージアムギャラリーや、岐阜県の自然・歴史・文化などの様々な事象を映像や文字で情報提供するハイビジョンマルチメディア体験の施設もあります。

平成16年度の特別展を2つ紹介します。夏季特別展「タイムトラベル 石器時代」(開催期間：7月10日～9月5日)では、旧石器・縄文時代の人たちが工夫を凝らして作った石器や土器を通して、その時代の生活の様子について詳しく紹介します。



火縄銃の展示



戸入火焰土器



県内出土の鏃

秋季特別展「里山ミュージアム」(開催期間：9月18日～11月14日)では、日本人の原風景である里山の自然を取り上げます。里山である百年公園の自然を生かした展示を通して、そこに生きる様々な植物や動物の生態、それらのかかりなどを紹介します。

また、17年2月19日～3月21日には、福井県立歴史博物館の協力を得て日本まんなか共和国博物館交流事業特別企画「越前、ものふの時代」を開催します。

ここでは、康継・席徹作の刀剣、記内・明珍作の鐔など越前の刀工や鐔師の手による江戸時代初期の刀剣・金工の優品、姉川川合戦図や信長と越前にかかわる安土桃山時代の歴史に関する資料など、福井県立歴史博物館の所蔵品の多くを紹介いたします。

ぜひ一度岐阜県博物館にお越しください。

(岐阜県博物館 日比野利弘)



里山の様子



ギフチョウ

展示標本紹介

スティリノドン・ミルス (Stylinodon mirus)

スティリノドンは紐歯類(ちゅうしるい)という種類の絶滅哺乳類です。紐歯類は偶蹄類や奇蹄類、長鼻類といった私たちがよく知っている草食獣たちよりも早くから特殊化し、大型化した草食獣でした。スティリノドンは最も進化した紐歯類で、中期始新世の初めごろ(約5000万年前)の北米に生息していました。体長はおよそ2mで、当時の草食獣としてはとても大きいものでした。

スティリノドンが生きていた約5000万年前は、地球の気候は現在よりもはるかに暖かく、陸上にはうっそうとした森林が広がっていました。スティリノドンの頭骨は頑丈で、そして顎にはまるでノミのような鋭い犬歯を持っていました。全ての歯は一生伸び続ける長い歯(高歯冠歯)で、激しい磨耗に耐える構造をしていました。また、頑丈な腕には大きなカギ爪がありました。スティリノドンはそのカギ爪を使って地中に穴を掘り、植物の根などを食べていたようですが、当時のどんな種類の植物を食べていたのかはまだ分かっていません。



(宮田和周)

尾羽鳥 (カウディプテリクス:Caudipteryx)

展示室2階の「生命の歴史」ゾーンの一角に鳥の進化をテーマにした場所があり、多くの羽毛恐竜や原始的な鳥が展示されています。その一つが尾羽鳥です。これは中国遼寧省から発見され、1998年にイギリスの科学雑誌ネイチャーにもっとも鳥に近い恐竜として発表されました。しかし、その後の研究によってこの仮説は疑問視され、現在は原始的なオビラプトル類(獣脚類恐竜)であると考えられています。

この恐竜の尻尾の先には長い羽が生えており、それがこの恐竜の名前の由来になりました。腕にも羽毛が生え、鳥のような翼になっていますが、尾羽鳥は飛ぶことはできず、他の目的で使われたと考えられています。また、尾羽鳥が発見された中国遼寧省は、たくさんの羽毛恐竜を産出し鳥の起源を解明する手がかりを私たちに与えてくれました。羽毛恐竜の発見により、羽毛が生えていたのは鳥だけではなく、ティラノサウルスやドロマエオサウルスを含む獣脚類



恐竜(特にコエルロサウルス類)も羽毛を持っていたと考えるきっかけになったのです。

尾羽鳥のお腹の辺りを良く観察すると、たくさんの小石からなる胃石が保存されているのがわかります。このような胃石は植物を食べる鳥に多く見られ、胃の一部(砂嚢)に溜め込み消化を助ける働きをします。おそらく尾羽鳥も、この胃石を使って消化の効率をあげ、植物を食べていたのでしょう。

(小林快次)

博物館バックヤード 石工室

岩石の研究は石を“壊す”ことから始まります。岩石は、風化のために岩石の表面と内部とで見かけが違うことがしばしばあります。岩石を調べるには、岩石を切断したり、研磨したりして、岩石の内部の構造を見る必要があります。どんな種類の、どのような形を持つ粒(鉱物)が、どのように配列しているかが、岩石の種類やその生い立ちを調べる鍵となります。一般に鉱物は小さいため、岩石プレパラートを製作して、顕微鏡で拡大して観察します。光がプレパラートを通過する際に、鉱物によって光に与える影響が異なるため、偏光を利用した顕微鏡(偏光顕微鏡)を利用すると鉱物の識別や種類の特定を比較的容易に行えます。さらに、プレパラート中の鉱物がどんな化学組成を持っているのかを知りたいときには、元素分析機能付属走査型電子顕微鏡を使って分析することもあります。このように、岩石の切断や研磨、プレパラートの製作や観察は、



大型岩石カッター

岩石の研究の基本となるものです。また、岩石に限らず、骨や卵の殻、貝殻、石化した植物などの化石がどのような内部構造を持っているのか、あるいは、どんな鉱物からできているのかを調べるためにも、岩石と同様、化石の切断や研磨、プレパラートの製作を行うことがあります。恐竜博物

館には、こういった作業を行うための部屋、石工室があります。

例えば、岩石のプレパラート作りは次のような工程で進められます。①岩石の切断: 岩石から、スライドガラスに貼り付けられる大きさのかけら(チップ)を切り出します、②チップの研磨: チップの1面を研磨し、平らな面を作ります、③チップのスライドガラスへの貼り付け、④2次切断: チップのガラスと反対側を切断し、薄い板にします、⑤仕上げ: 石を研磨して、光が通るまで薄くします。厚さによって観察できる像が異なるため、一般に約0.03mmの厚さにして観察します。

石工室には、岩石の切断や2次切断に利用する大小の岩石カッター、研磨に利用する回転式研磨装置、半自動で研磨を行う研磨装置、スライドガラスへのチップの貼り付けに利用するホットプレートなどが設置されています。このほか、軟らかい岩石や化石に樹脂を染み込ませたり、化石を樹脂中に封入したりする作業に利用する樹脂含浸装置、圧力を加えて岩石を割る装置、岩石をつぶしたり、粉末にしたりする作業に利用する装置なども備えています。石工室は、恐竜博物館の調査研究活動や教育普及行事などの裏方で、重要な役割を果たしています。



回転式研磨装置

(佐野晋一)

コンピュータ教室

「恐竜年賀状をつくろう」

12月6日(土) 13:00~15:00

恐竜を通して博物館やコンピュータに親んでもらおうと、4歳から小学3年生までの親子を対象に開催しています。今回は、恐竜年賀状づくりに挑戦してもらいました。

まず図鑑や絵本などを参考にして、恐竜の絵をえがいてもらいます。コンピュータはさわるのも初めてというお子さんもいましたが、がんばってコンピュータのマウスを操っていました。その絵を下絵にして、「あけましておめでとう」や自分の名前などの文字を入力したり、博物館で用意した恐竜や、お正月らしいカット絵を画面上で貼ったりしていきます。親子でいろいろと相談しながら、楽しく作り上げていく様子はとてもよいものです。最後にプリンターで印刷して出来上がりです。新年にふさわしいとても素敵な年賀状が完成したようです。

(千秋利弘)



恐竜ふれあい教室

「親子で恐竜画に挑戦」

2月29日(日) 13:00~15:00

2月29日(日)、恐竜漫画家のヒサクニヒコ先生をお招きし、「親子で恐竜画に挑戦」を実施しました。県内外から、ヒサクニヒコさんのファンだ、という親子27組(計62名)が参加してくれました。

ヒサ先生の説明のあと、展示室に行き、皆それぞれ好きな恐竜骨格の前に行き、なんともいえない真剣な表情で下書きをしていました。ティラノサウルスはやはり一番人気だったようで、たくさんの子たちが思い思いに描いてくれました。下書きの出来た子は研修室に戻り、色づけです。同じ恐竜でも一人一人色づけることによって、かわいい恐竜、怖そうな恐竜と、色々な恐竜が出来上がりました。最後にヒサ先生が一人一人の絵を紹介し、コメントを頂きました。教室が終了後、ヒサ先生にサインをしてもらおう子もいて、とても思い出に残る教室になったようです。

(砂子英恵)



平成16年度からの開館日のお知らせ

4月から恐竜博物館は月曜日も開館いたします

多くの皆様のご要望にお応えし、さらに開館日拡大のため、4月から恐竜博物館は月曜日も開館することとなりました。これで遠方の方や休日が合わなかった方も、来館のチャンスがさらに増えることとなりますね。ぜひ恐竜博物館へお越しください。

なお、展示替えや施設の点検などのため、休館させていただきますことがあります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。具体的な開館スケジュールにつきましては、恐竜博物館ホームページをご覧ください。お電話(0779-88-0001)にてご確認ください。

4月~7月の恐竜博物館 休館スケジュール

4

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

休館日

所定の方法にて、行事名・住所・氏名・電話番号・年齢を、博物館までご連絡ください。開催日の一か月前から受付開始で、定員に達し次第、締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の抽選となる場合があります。
※当館Webサイトの行事案内ページ (<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>) もご覧ください。

■館長講演会「恐竜の卵をめぐる話題(仮題)」

●対象/一般
 ●申込/申し込み不要です。
 日 時/5月16日(日) 14:00～15:30
 講 師/館長 濱田隆士
 場 所/講堂

■特別展講演会「浙江省の恐竜
 —“恐竜の里”の発掘最前線—」

●申込/申し込み不要です。
 日 時/7月11日(日) 14:00～15:30
 講 師/浙江自然博物館 金幸生 研究員
 場 所/講堂

博物館セミナー

●場所/研修室 ●対象/一般 90名
 ●申込/電話、FAX、E-mailにて

■大地の生い立ちを探る

大陸移動と生物の歴史
 日 時/5月23日(日) 13:00～14:30
 内 容/絶えず変わる海と陸の配置に合わせて進化した生物の歴史を振り返ります。
 講 師/一島啓人

■大地の生い立ちを探る

北陸最大のジュラ紀前期の地層に挑む
 日 時/6月27日(日) 13:00～14:30
 内 容/厚さ5000mを超える北陸最大のジュラ紀層の正体を探ります。
 講 師/後藤道治

■大地の生い立ちを探る

古地磁気が語る福井の生い立ち(仮題)
 日 時/7月4日(日) 13:00～14:30
 内 容/未定
 講 師/福井大学 中島正志 教授

■特別展開連行事:

コメ文化から見た日本と中国(仮題)
 日 時/8月22日(日) 13:00～14:30
 内 容/未定
 講 師/富山県小矢部市教委 伊藤隆三 氏

博物館自然教室

●申込/往復ハガキ、E-mailにて
 ■恐竜の骨格を調べよう! 骨化石の観察
 日 時/4月29日(祝) 13:00～15:00
 内 容/恐竜の骨を観察し、その骨の鑑定作業を行います。
 担 当/小林快次 場 所/実習室
 対 象/小学4年生から一般 20名

■石を調べよう! 岩石プレパラートづくり

日 時/5月30日(日) 13:00～15:00
 内 容/石ころからプレパラートをつくらせて、石のつくりやでき方を調べます。
 担 当/後藤道治
 対 象/小学4年生から一般 20名

■石を調べよう! 顕微鏡で探る岩石の世界

日 時/6月19日(土) 13:00～15:00
 内 容/顕微鏡を使った観察から、岩石のでき方を紹介します。
 担 当/宮田和周 場 所/実習室
 対 象/小学4年生から一般 20名

■恐竜化石発掘現場見学

日 時/7月31日(土) 13:00～15:00
 内 容/恐竜化石発掘現場へ行き、地層の観察や発掘体験を行います。
 担 当/館長ほか 当館職員
 場 所/恐竜化石発掘現場
 対 象/小学4年生から一般 40名

■恐竜化石発掘現場見学

日 時/8月8日(日) 13:00～15:00
 内 容/恐竜化石発掘現場へ行き、地層の観察や発掘体験を行います。
 担 当/当館職員
 場 所/恐竜化石発掘現場
 対 象/小学4年生から一般 40名

■恐竜画をかこう!

日 時/8月29日(日) 13:00～15:00
 内 容/恐竜の特徴をつかんで、恐竜のイラストに挑戦します。
 講 師/ヒサクニヒコ氏 場 所/実習室
 対 象/小学4年生から一般 20名

野外観察会

●対象/一般 40名
 ●申込/往復ハガキ、E-mailにて
 ■岐阜県瑞浪層群の化石
 日 時/6月6日(日)
 内 容/2000万年前の化石林を観察します。
 担 当/一島啓人、寺田和雄、小林快次
 場 所/岐阜県美濃加茂市方面

地学指導者実技講座

●対象/教師および社会教育関係指導者など20名
 ●申込/往復ハガキ、E-mailにて
 ■博物館の利用法:理科の授業での活用
 日 時/6月18日(金) 13:00～15:00
 内 容/理科の授業で役立つ実習を行います。
 担 当/東洋一、渡辺哲夫
 場 所/研修室

■野外実習:経ヶ岳火山噴出物の観察

日 時/7月27日(火)
 内 容/野外での岩石や化石、地層など教材収集や授業での活用の仕方を学びます。
 担 当/東洋一、後藤道治、渡辺哲夫
 場 所/勝山市・大野市

恐竜ふれあい教室

●申込/往復ハガキ、E-mailにて
 ■親子で化石のペーパーウェイトづくり
 日 時/5月22日(土) 10:00～15:00
 内 容/化石のはいた岩石を加工して、オリジナルのペーパーウェイトをつくりまします。
 担 当/後藤道治 場 所/実習室
 対 象/4歳～小3の親子 20組
 ■親子で恐竜おりがみに挑戦
 日 時/7月17日(土) 13:00～15:00
 内 容/折り紙でティラノサウルスなどの恐竜を折り、ジオラマをつくりまします。
 担 当/砂子英恵 場 所/研修室
 対 象/4歳～小3の親子 40組

■親子で恐竜化石レプリカづくり

日 時/8月7日(土) 13:00～15:00
 内 容/恐竜やアンモナイトなど本物そっくりの化石のレプリカをつくりまします。
 担 当/渡辺哲夫 場 所/実習室
 対 象/4歳～小3の親子 20組

コンピュータ教室

●場所/実習室
 ●対象/4歳～小3の親子 15組
 ●申込/往復ハガキ、E-mailにて
 ■恐竜シールをつくってみよう!
 日 時/4月25日(日) 13:00～15:00
 内 容/恐竜の絵を貼ったり文字を組み合わせてシールを親子でつくります。
 担当者/千秋利弘

特別展ツアー—特別展の展示解説

●場所/特別展示室 ●対象/一般 20名
 ●時間/13:00～15:00
 ●申込/電話、FAX、E-mailにて
 ■第1回 7月25日(日) 第2回 8月28日(土)
 内 容/特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。
 担当者/矢部 淳、野田芳和

ダイノメイト 後援会より

暖冬変じて、日本列島も各地で大雪に見舞われましたが会員の皆様にはお変わり御座いませぬかお伺いいたします。こちら勝山の方も1m余りの積雪に覆われましたが、3月の声とともにようやく春めいてまいりました。

さて、平成16年度もダイノメイトの皆様喜んで参加していただけるようなイベントを企画したいと色々考えています。

今の所「海外恐竜体験の旅」は8月20日から24日まで、中国 雲南省を考えています。中国における恐竜発掘体験にどうぞご期待下さい。また「夏の特別展見学の集い」は7月17日から18日を予定しています。いずれも要項が決定次第、会員の皆様にはお知らせ致しますのでできるだけ多くの皆様に参加されますようお願いいたします。

ただいまダイノメイト会員を募集しています。

郵便振替用紙に、住所、氏名、生年月日、を記入されて会費を下記口座に振り込んで下さい。
 年会費は 個人会員…2,000円、家族会員…3,500円 但し会費を3ヶ年まとめて納入されますと、個人会員…5,700円、家族会員…10,000円に割引させていただきます。
 郵便振替口座 00770-9-47730 加入者名 福井恐竜博物館後援会 ダイノメイト

日増しに暖かくなってまいりましたが、今年の冬は例年以上の積雪で、博物館の建物の周りには、まだ雪が随分残っています。

さて、平成15年度も残りわずかとなってまいりました。一般に新設館は年々入館者が減るものですが、当館では逆に増えてきており、今年度の入館者数は、ここ3年間の中でどうやら一番多くなりそうです。たくさんの方々に来館して頂き、スタッフ一同、大変うれしく思っております。来年度も、今年度以上の来館者にきていただけるよう様々な催し物を計画しています。(渡辺哲夫)

編集後記